

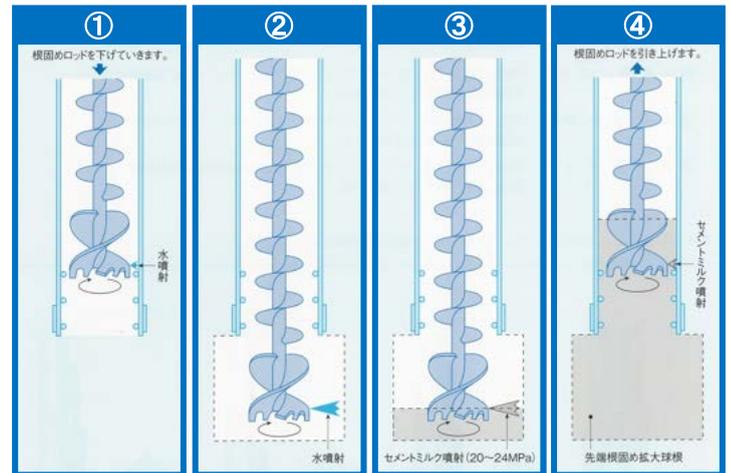
TN工法

(土木・建築構造物基礎)

概要・特長

TN工法 / CMJ工法とは、鋼管杭の内側に挿入したオーガースクリューにて管内土の排土を行いながら掘削をおこない、所定の支持層に到達後、セメントミルクを高圧噴射・根固めし、築造した先端拡大球根にて構造物を支持する基礎杭工法です。土木および建築の各分野で広く適用され、鋼管矢板基礎への適用も可能です。

- ① 掘削性能が高く、長尺施工が可能です
- ② 適用性が広く、実績が豊富です
- ③ 鋼管矢板基礎への適用が可能です
- ④ 施工効率が高く、工期短縮に有効です

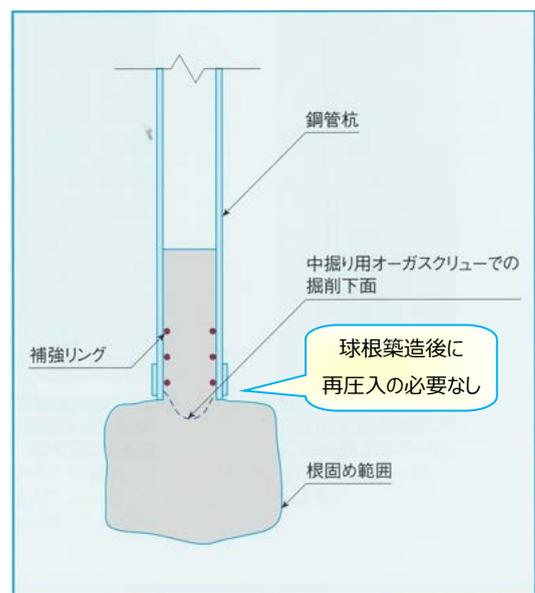


鋼管矢板基礎への適用

鋼管矢板基礎は、P-P型継ぎ手の鋼管矢板を円形・矩形・小判型等の井筒形状に結合し支持杭まで設置します。主に河川や海土部での橋脚基礎や、大型構造物の基礎として使用されます。施工は2工程を標準とし、先に鋼管矢板を中掘り圧入し全数を結合、その後先端根固め処理を行います。鋼管矢板基礎の施工は継ぎ手部の抵抗等の問題から、築造した球根内へ鋼管を再圧入することが困難ですが、TN工法は、鋼管の圧入後に根固めを行うため施工が確実で、杭の場合と同じ支持力が期待でき、適用性が高いと評価されております。



鋼管矢板井筒基礎 (施工後状況)



杭先端詳細図

